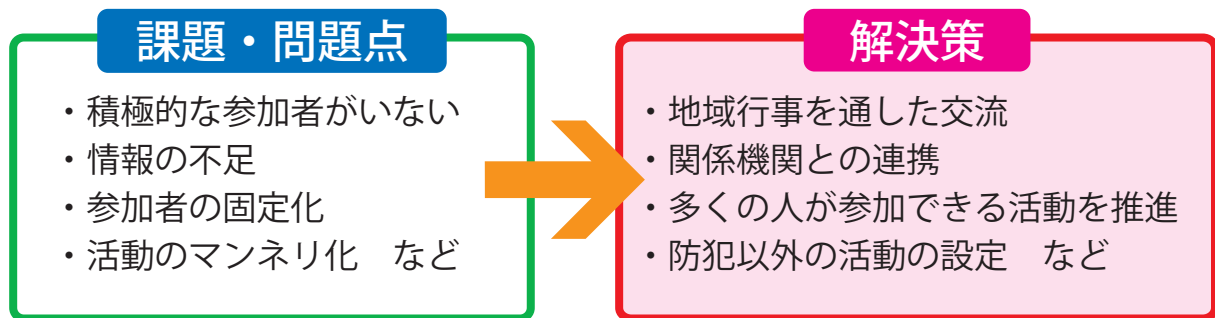


地域環境などによる課題

防犯組織の運営には、さまざまな問題点や課題があります。それは、中心市街地や新興住宅地、農山村地などのまちの条件や特徴によって、また、活動の初期や継続期などによって異なります。

たとえば、中心市街地では自分たちのまちは良く知っているつもりでも防犯の視点でまちを見たことがない人が多く、新興住宅地では地域住民の交流が少なく顔見知りが少ないので、防犯はまちづくりであるとの認識が薄くなります。農山村地では、犯罪が少ないため、具体的にどのような防犯活動をすれば良いかわからない、また、防犯活動の効果がわからないといった問題点があります。

また、活動を継続するにあたっては、参加者が固定化する、若いメンバーが集まらない、積極的に活動を行う住民が少ない、活動がマンネリ化してパトロールするのみになってしまう、関係機関や団体等からの情報が不足している、などの課題・問題点が挙げられます。



解決策に悩んだら？

- ・定期的に参加者が集まる機会を作り意見交換を行う。
- ・他の団体と連携を図り、お互いの情報共有する。

問題点を把握し、解決策を立てていこう

規準表〈51b〉 防犯活動に参加する人材を育成することができる。

〈54a〉 防犯活動に対して積極的に取り組むことができる。

ねらい □□ ①防犯活動の人員の確保ができる。

□□ ②地域での様々な行事などを通して防犯活動の人材を集めることができる。

□□ ③後継者の育成について計画的に取り組むことができる。

□□ ③安全教育以外にも地域づくりや街づくり、環境改善などの活動に積極的に参加することができる。

11

「防犯」は「まちづくり」

防犯の基本は、犯罪が起きにくい環境をつくることであり、そのためには、地域住民が顔見知りになることや地域をきれいな整然とした環境に整えることが重要です。地域住民一人ひとりが「防犯」は「まちづくり」であることを認識し、防犯活動を継続していくことが大切です。

さまざまな課題や問題点を解決し、活動を長続きさせるためには、多くの住民が参加できる活動内容を設定する、無理のない手段や方法で実施する、活動重点や活動計画を定め、目的や内容等については住民相互で意思統一を行う、拠点を設けて活動しやすい環境をつくる、リーダーの防犯活動の知識が豊富で積極的である、関係機関・団体と緊密な連携を図る、といったことが重要であると考えられます。

また、地域の行事を積極的にPRし、住民同士がふれあう機会を多くつくること、その行事を通してさまざまな世代間の交流を密にし、次世代のリーダーを育成することも、活動を継続し活発にするために大変重要なことといえます。



ビデオ教材 (ビデオ→ 防犯組織の運営と課題解決)

※ビデオを見て、問題点の整理方法と解決策をまとめてみましょう。

Column

若い世代の参加が少ない、活動を引き継いでくれる人がいない、これは多くの地域が共通して抱えている問題です。

子どもを持つ親の世代は働き盛りでもあり、見守り活動やパトロールに参加しにくい状況にあります。まずは活動に対する理解を求め、容易に参加できる活動を推進していく必要があるでしょう。